

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100212		
法人名	有限会社 美大		
事業所名	グループホーム大河	ユニット名	大河2号館
所在地	宮崎県宮崎市古城町長田5911番地		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=4590100212-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	大河2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各勤務交代申し送り時に、掲示されている理念を読み上げ、日々の実践が理念に沿ったものになるように、職員間で確認し、実践につなげている。また、毎月の職員会議で経営者を交え、理念に沿っているか確認している。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の古城保育園との交流や古城小学校の登下校時に、挨拶を行っている。また、散歩時、近隣住民との挨拶、会話を積極的に行っている。他グループホームとの交流も毎月行い、交流を深めている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	赤江東中学生の福祉体験やヘルパー2級実習生、訪問看護実習性を受け入れ、認知症の方の理解や支援方法を伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や行事を会議の中で報告している。利用者の状態等については、面会時に報告・相談を行っている。要望等があった場合は、経営者を交え、全職員で話し合い改善を行っている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が行う研修には、積極的に参加している。疑問点があった場合には、地域包括支援センターや市の担当課に連絡を行い、確認している。また、経営者が市の元職員であり、市との連携は密にとれている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で、身体拘束に関する研修を行っている。切迫性・一時性・非代替性を理解し、身体拘束をしないケアを行っている。日中玄関は施錠せずに、センサーで対応している。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、参考資料を用い、事例内容等を報告し、職員会議で全職員が学ぶようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	大河2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で、経営者が講師となり研修を行った。家族には、家族会で後見制度について説明し、理解してもらっている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族の要望を聞き、十分な説明を行っている。また、契約前にはホームの見学を行ってもらい、納得されてから契約している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者、家族とのコミュニケーションをとり、要望が言いやすい環境作りに心がけている。要望については話し合い、検討している。また、改善内容をファイルにまとめ、見学者、面会者がいつでも閲覧できるようにしている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には経営者が参加し、職員の意見は批判せず、多くの意見が出るようにBS法を使っている。職員からの意見は、経営者・管理者・職員が話し合い、運営に反映している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のステップアップを奨励し、資格に応じて手当で処遇されている。また、勤務時間、休日の希望をできる限り受け入れ、勤務を組んでいる。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が、社外研修を内容に応じて参加できるようにしている。研修後は、全職員に周知できるよう会議で報告している。また、外部から講師を招き、社内研修を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流を毎月行っており、交流や意見交換をしている。また、グループホーム連絡協議会研修にも積極的に参加し、ネットワークづくりを行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	大河2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、本人・家族の要望を聞き、全職員で話し合い解決策を見つけるようにしている。利用開始後は、利用者、家族と話す機会を多く持ち、早い段階で信頼関係を築き、要望が言いやすい関係になれるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族も不安な面もあるので、その日の状況を電話で連絡を行っている。面会時には、家族が安心して頂けるよう、日頃の状況を伝えるようにしている。些細な事でも要望があれば、沿えるように努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話す機会を多く持ち、まず、必要としている支援を検討し、対応している。眼科、歯科、病院からの往診を取り入れたり、精神科受診を必要をされていた方には、医療機関との連携を密にとるようにした。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特に男性職員は、料理について利用者から多くを学ぶ機会がある。野菜の切り方、味付けについては、細かく教えて頂く事が多くある。また、昔の言い伝えや子供の躾方法などをよく教わっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の誕生日には、家族も参加をお願いし、一緒に祝っている。また、家族ノートがあり、日頃の出来事を記入し、職員・家族と一緒に喜びを分かち合えるように努力している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会や知人、友人の面会はよくある。日頃の会話の中から情報を集め、家族に報告を行い、希望に添えるよう、ホームと家族で協力し対応を行っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、特に席の配置に気を付けている。利用者が孤立しないよう、職員が間に入り、関わりが持てるようにしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	大河2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際には、ホームでの生活を詳しく伝えるようにし、新しい場所でも安心して生活できるように、相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の利用者との会話の中から希望を聞き、全職員が把握できるように記録に残し、職員会議で希望がかなえられるように話し合いを行っている。意思を伝えるに難しい方は、表情や仕草、ジェスチャーで本人の気持ちをくみ取るようにしている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、情報を出来るだけ集めるようにしている。細かな部分や把握できなかった部分は、本人との会話の中から把握するようにしている。また、家族の方にも面会時に聞くようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態をアセスメントシートに記入し、全職員が把握できるようにしている。できないで終わらせるのではなく、どのように支援すれば出来るのかを職員会議で話し合っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者毎に決めている担当者を中心に話し合い、本人の希望、家族の希望を取り入れるようにし、会議でどのように支援すれば、希望がかなえられるかを話し合っている。話あった結果を介護計画に反映している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子や気づき、工夫等を詳しく記入し、全職員が把握できるように、出勤時に確認するようにしている。気づきや工夫を会議で話し合い、介護計画に取り入れている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部研修で築いた人脈を活かし、他所の事例を参考にしたり、看護師、ケアマネ、介護職員が話し合い、その時のニーズに応じた支援が出来るように取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	大河2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方の訪問や古城保育園との交流も盛んであり、利用者も喜ばれている。また、買い物に行った店の店員が自ら見守りや介助を手伝って頂いた事もあった。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院との連携はとれており、緊急時の受診に対応してもらっている。受診時には、情報提供書を作成し、詳しく状態が伝えられるようにしている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	勤続9年目の看護師が、一人ひとりをよく把握しており、職員は利用者の表情や状態の変化に注意し、いつもと様子が違う所があれば看護師に報告し、指示を受けるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の日頃の情報を書面にまとめ、ホームでの状態を詳しく伝えるようにしている。退院時には、医療関係者からホームでどのように対応したらよいか、アドバイスをもらっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りについて説明を行い、理解してもらっている。重度化、終末期になった場合は、医師との連携を密にし、家族、本人の希望に沿った支援が出来るように全職員で対応できる体制がとれている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が行っている普通救命講習や研修に参加している。研修で習得したことは、職員会議で全職員に伝えている。また、AEDが設置しており、使用方法の職場内研修も行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者のもと、毎月避難訓練を行っている。訓練は夜間を想定し、少人数でも避難誘導・通報が的確に行えるようにしている。また、地域の方の協力もあり、ホームに設置してある消防ホースを接続する水源の提供の了承を得ている。			

自己	外部	項 目	自己評価	大河2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を熟知し、プライドを傷付けないよう常に配慮している。排泄誘導時には、耳元で小声で伝えたり、おむつ交換時には扉を閉め、タオルをかけ、本人のプライドが傷つかないようプライバシーに配慮している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中から、思いや希望を聞き、本人の思いに添えるよう努力している。また、日常生活では、本人の意思を確認し、自己決定できるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者の様子を常によく観察し、その思いを知るよう努めている。利用者の希望を優先し、業務優先ではなく利用者優先で行い、安心した楽しい生活が送れるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔からの好みなどを日頃の会話や家族面会時に聞くようにしている。全職員が把握できるように記録に残し、その人らしい身だしなみが支援できるようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中から、知りえた好みをメニューに取り入れている。調理は、職員と利用者が一緒に行い、できる範囲でして頂いている。また、職員と利用者が同じテーブルで楽しく会話をしながら、食事をしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは医療機関の管理栄養士に相談し、作成している。食事量、水分量はチェック表を作成し、確認している。好みでない食品に関しては、各人の好みの食品に変更して対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔清掃を行い、義歯に関してはポリドントを行っている。訪問歯科医よりブラッシング指導も受けている。			

宮崎県宮崎市 グループホーム大河（大河2号館）

自己	外部	項目	自己評価	大河2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表でパターンを把握し、できるだけトイレでの排泄ができるように誘導、声かけを行っている。また、利用者の排泄サインを見逃さないようにしている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で一人ひとりの状態を把握している。下剤の使用は、看護師と連携をとり調整を行っている。薬に頼りすぎないように、水分量や日中の生活を活動的に過ごせるように工夫している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望があれば、いつでも入浴できるようにしている。昔からの生活習慣で、休まれる前に入浴される方もおられる。入浴中は楽しく入浴できるよう、好まれる話をしながら支援している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を知り、休みたい時に休まれるように支援している。夜間良く休む事ができるよう、日中の活動、また、不安のある方に対しては傍に座り、話を傾聴し、安心して休んでいただけるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者ごとに薬剤情報を作成し、薬の効果や用法・用量をわかりやすくしている。薬に変更があった場合は、その都度修正している。投薬の際は、顔写真入りの投薬袋を作成し、サンプルと照らし合わせ、2人で確認し投薬している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からの生活習慣や日頃の生活の中で、できる事、できそうな事を見つけ、楽しくできるようにさりげなく職員が支援している。また、本人の楽しみ等は、介護計画にも反映している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃の会話の中で行きたい場所等の情報を把握し、家族協力のもと外出されたり、他利用者と一緒に出かけたりしている。いつも買い物に行く店の店員さんが、率先して介助を手伝って頂く事もある。			

自己	外部	項 目	自己評価	大河2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や力に応じて支援している。買い物などは、できるだけ本人が支払いからお釣りまでもらえるように、さりげなく職員が支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時は、かけてもらっている。手紙を出したい方に関しても、なるべく利用者の字で書いて頂くようにし、思いが伝わる様にしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに季節感を出すように、ホームに咲いた花や収穫された野菜などを飾るようにしている。花など飾る場合も、利用者と一緒にアドバイスを受けながら、飾るようにしている。ホームの花の水やりなども利用者と一緒にやっている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルは、気の合う利用者が近くに座れるようになっている。椅子以外にもソファが置いてあり、そこで横になられたりされている利用者もいる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から馴染みのある物を持ち込んでもらい、心地よく過ごしてもらっている。扇風機やラジオなど、日常的に使用する物に関しても、慣れたしんだ物を家族と相談し、持ち込んでもらっている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・洗面所など、場所がわかるように利用者の目線の高さで張り紙をし、わかるようにしている。居室の家具等の配置にしても、利用者ができるだけ自分の力で行動ができるように工夫している。			